

経営情報学会 2014 年春季全国研究発表大会

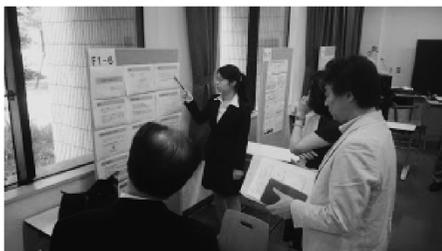
大会実行委員会：石津昌平，宮川裕之，松本俊之，熊谷 敏，大内紀知

2014 年春の全国大会は，5 月 31 日，6 月 1 日の両日，青山学院大学相模原キャンパスで開催された。相模原キャンパスは新横浜から 30 分の淵野辺駅を最寄駅とするキャンパスであり，できて 11 年目の新しいキャンパスである。大会中は屋外にいると汗ばむくらいの晴天に恵まれ，活発に研究発表が進められた。

今回の研究発表大会は「先端プロジェクトのマネジメント」のテーマで開催された。1 日目は午前中に研究発表会，学生ポスターセッション，学会賞講演を行い，午後は開会式と基調講演，特別講演，総会が行われ，夕刻に懇親会が行われた。2 日目は集中的に研究発表会が行われた。研究発表会は 4 ストリームで合計 55 件の発表があり，各会場で活発な討論が行われた。

1. 学会賞講演と学生ポスターセッション

学会賞講演として東京都市大学の梅原英一氏が「情報システム障害に関する IT ベンダーとの契約におけるゲーム理論による分析」というテーマで講演された。学会賞の論文の背景となったユーザとベンダーのジレンマについて，金融商品取引法における IT ベンダーの内部統制の経緯を絡めて講演された。学生ポスターセッションは 6 件あり，緊張感溢れる中，熱心な発表と活発な質疑がなされていた。開会式で 2 名の学生に学生優秀発表賞が授与された。



学生ポスターセッション



中鉢良治氏の基調講演

2. 基調講演と特別講演

「先端プロジェクトのマネジメント」のテーマに対して基調講演では産業技術総合研究所（産総研）の理事長の中鉢良治氏より「技術を社会に～知る，作る，役に立つ～」というテーマで，先端プロジェクトのマネジメントにおけるイノベーションのあり方が講演された。

「21 世紀の階段」や「成長の限界」，「限界を超えて」などの名著を引き合いに出しながら，炭素繊維や微生物の酵素を用いた甘味料など，産総研のイノベーションの成功事例が紹介された。そのうえで，科学による発明・発見（知る）段階，生産技術の開発（創る）段階，イノベーションによる事業化（役に立つ）段階に分けて，各段階の橋渡し役としてのマネジメントの重要性が講演された。講演の最後にこれからのイノベーションに必要な技術について質問があり，それについて即座にサステナブルな技術こそ本質であると答えられたことは印象的であった。

特別講演は宇宙航空研究開発機構（JAXA）の研究総主幹の満田和久氏より「宇宙科学プロジェクトにおけるシステムエンジニアリングとプロジェクトマネジメント」というテーマで講演された。HAYABUSA や IKAROS，すざくなどの JAXA の先端プロジェクトの事例を中心に，これらのプロジェクトを完成させるためのマネジメントの工夫が発表された。長期間にわたる JAXA のプロジェクトを概念検討，概念設計，予備設計，基本設計，詳細設計，製作 / 試験，



満田和久氏の特別講演

打ち上げのサブプロセスに分解し、これらのサブプロセスにおけるシステムエンジニアとプロジェクトマネジメンの重要性が指摘された。特に、世界初でエンドが見えない状況で、リスクを徹底的に洗い出すための努力が必要であることが報告された。

3. 懇親会

懇親会は、大会1日目の総会後に、キャンパス内の食堂で行われた。まず、大会委員長で青山学院大学の副学長である林洋一氏から挨拶があり、これからの大学経営における経営情報学会への期待が述べられた。平野雅章学会長より、経営情報学会のこれからについて、特に国際会議の開催に向けた抱負が述べられ、乾杯が行われた。昨秋の開催校である流通科学大学への感謝の意が述べられた。

青山学院大学のキャンパス内は飲酒禁止のため、懇親会でもアルコール飲料は準備できなかった。実行委員の全員が最も心配していたのがアルコールなしの懇親会である。実際は参加者の方々のご理解により、アルコールなしでも和気あいあいとした雰囲気で行われて進めることができている。アルコールの代わりではないが、宇宙食の試食会を行い、興味津々に試食してもらった。

4. 一般発表

一般発表についての全容はこの紙面ではとても伝えきれないが、1日目、2日目の2つのセッションでの発表について報告する。

1日目：B会場（経営戦略）

1件目の発表は、資源の結合と持続的競争優位性に関して、事例をもとに資源ベース論に関する研究仮

説が提示された。2件目は、Webブラウザのシェア競争に関して、プラットフォーム包囲とアプリケーション層の支配力が重要であることが提示された。3件目は、モバイル世界の拡大によるエコシステム変化への適応に関して、利用地域の拡大と利用形態の深化が各企業の適応を要求していることが考察された。4件目は、オープンソース・ソフトウェアの活用・開発が企業経営に及ぼす影響に関して、アンケート調査の結果および比較により企業経営指標との相関の変化がみられたことが報告された。経営の分野において本質的なテーマを扱ったセッションであった。

2日目：C会場（人材・能力開発）

1件目の発表は、次世代リーダー育成における人的ネットワーク形成について、大企業を対象とした事例研究と受講者に関するアンケート調査をもとに考察された。2件目は、ベンチャー企業だけでなく大手企業の新規事業としての参入などにより活性化している日本におけるクラウドソーシングに関して、業界の現状と課題について論じられた。3件目は、IT部門からの新事業創出手法とその検討方法について、サービスデザイン手法とIT人材育成セミナーを通じて論じられた。4件目は、育児経験が企業での知識共有行動に与える影響に関して、IT企業で育児を経験した従業員を対象にインタビュー調査をもとに考察された。経営の分野における重要な「人の育成」を扱ったセッションであった。

いくつかの会場ではセッションの後も熱心に討議する姿が見られ、大会参加者の研究意識の高さも十分に感じられた発表会といえる。2014年春季全国大会を盛況のうちに終了することができたのは、林大会委員長はもとより、平野学会長、担当理事の方々、発表会の座長はじめすべての関係者のご尽力の賜物と感謝しています。



研究発表会